

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス けやきの森			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		～	2026年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	21名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		～	2026年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	おかげさまで保護者の方々からは子ども達が楽しく利用していると言う判断をしていただいている。年齢が違っていても事業所内では隔てなく一緒に活動を楽しむ姿が見られる。工作にも力を入れており、今流行っているぶっくりしたシールを手作りしたりと調べたり、アイデアを出し合って取り組むようにしている。	子ども達が主体となり、日々の活動で何をしていくかを決めていく。子ども達がやりたい事が学校や自宅では出来ない不足した部分だと捉えている為、身体を動かした活動であったり、工作であったり子ども達によって内容が異なる。やりたいと思った事は否定するのではなく、周囲を巻き込んで実行しよう心掛けている。	最近では平成女兒玩具と言うジャンルが流行っており、シール帳のリバイバルが起こっている。男の子でもシールを集めるのは楽しい様で自身でシールを作る事にも挑戦。子ども達が学校で流行っているものも出来るだけ取り入れ、事業所に来ると学校でもコミュニケーションが円滑になるように取り組んでいきたい。
2	保護者同伴でのお出かけを毎年実施。今年度は大阪・関西万博があったので、当事業所でもお出かけの場所として設定。手帳があるお子様のグループと手帳がないお子様のグループで日分けて実施。他にもUSJも保護者同伴でお出かけ。どちらも手帳がある事で待ち列に並ばない等、配慮がされているので活用して回ることが出来た。	お出掛け終了後はとても評判が良く、子ども達も印象に残っていた様で利用時に思い出話に花が咲く事もあった。保護者の方も普段は見られない子ども同士の関りを見る事が出来て好印象を持っていただいている。リピート率も高く、前回参加していただいたご家族は再び参加していただく傾向にある。満足度と直結している印象。	特に今年度はお出かけとして企画する機会が多かったので、来年度は回数的には減ってしまう可能性がある。今後、万博の様な大きなイベントがあった時は早めに下見に行き、子ども達や保護者の方々が負担少なく回れるように準備をしていきたい。USJに関しては開散期・もしくは除外日を事前に把握して設定していきたい。
3	保護者の方のニーズにも合わせた対応を行っています。例えば、仕事が終わって帰る時間が遅くなってしまう場合、子どもが一人で家で過ごす時間を回避する為に順番を最後に回して保護者の帰宅時間に合わせる等対応を行っています。他にも病院へ行く為、早めに送って欲しいと言ったご希望にもお応えしています。	業務終了の時間はある程度固定化されているので、子どもの送迎順番はある程度決まりつつある。保護者とも確認を行い、必要に応じて順番の変更も行っていく。長期休暇の時はお昼ご飯の準備についても臨機応変に対応。お弁当作りが負担にならないように商店街のお店でお昼ご飯の購入を行い、療育に繋がっていく。	これ以外にも保護者からの要望があった場合、出来る範囲で対応をしていきたい。土台としては子どもが安心して過ごせる環境の提供となるが、それに合わせて保護者の方々が負担にならないように協力が出来る様にしていきたいと思っています。状況に合わせて柔軟に対応していきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の放課後等デイサービスとの交流を今年度は多く設けた一年となりました。夏祭りごっこをしたり、ハロウィンでおやつとの交換をしたりといい刺激になりました。ただ、地域の子どもの関わりがあったかどうかとなるとこれには当てはまらない印象。設問の捉え方は保護者の方によって様々変わっていく印象。	地域の子どもの関わりについては公園と一緒に遊ぶ事が多くなるかと思えます。事業所内に招いて一緒に遊ぶと言うのはなかなか難しく、現実的ではないので実施は困難。設問にある地域の関わりはこちらが定期的に公園へ出向いて、一緒に遊ぶ事を習慣化していきたいと思う。互に行けばいいと言うのを認識していきたい。	そもそも論になってしまうが、利用している子どもやその保護者が児童館との関りを望んでいるかどうかポイントになって来ると思われる。強く希望する声が出てきた場合、事業所としても積極的に取り入れていきたいと思う。ただ、どちらともいえない・わからないと言う範囲では現状の対応に留まる。
2	避難訓練や避難場所・経路等事業所では作成しているが、保護者にはその内容が届いていない印象。毎月の広報で定期的にお知らせをしているが、印象に残っていない。ブログ等でも定期的にアップしているが、こちらはもっと見る機会が少ないように思われる。活動内容をもっとアピールできるようにする必要がある。	やっている事が伝わっていないと言うのは大きな課題と感じている。曜日によっては実施した日に利用がなく、避難訓練をしていると言う実感がないうまま一年を過ごしてしまう場合も考えられる。そういったご利用者様にも活動内容を理解してもらえ様に広報にも力を入れていきたいと思う。伝えていく方法を検討。	法定研修を始め、事業所では必要な取り組みをしている。ただ、あからさまに表現すると言う事をしてこなかったことで、保護者には伝わっていないようにも感じられる。事業所としては引き続き、実施をしていく。それに加えて保護者に対してどうアピールしていくかを考えていきたいと思います。
3	事業所の設備としては十分な広さや機材が揃っていると自負しています。それらの環境を上手に使ってけやきの森ならではの活動を行っているつもりですが、保護者の方々には慣れが生じてしまい当たり前の様に感じている様に思っています。子ども達が楽しく交流を深める活動はある程度固定化していますが、当事業所ならではの活動はあります。	他の事業所では同じように過ごす事は難しい部分があるかと思えますが、けやきの森の活動に慣れてしまうとあまり特別感が感じられないのかもかもしれません。現在取り組んでいる活動に加えて、新しい事に挑戦していきたいと思っています。ただ、子ども達も大きな変化は求めていないようなので、バランスを考えていきたいです。	成長と共に以前は楽しんでいた活動にも興味が薄くなってきてしまう事があります。全体的に年齢が上がり、低学年向けの活動が面白くないと感じられてしまう様です。事業所としてもやりたくない活動を無理矢理させる様な事はしていません。あくまでも、子ども達が主体となって参加するように仕掛けていきます。